「みずのき美術館」について

1964年、重度の知的障害者の入所施設「みずのき寮」で、絵画による余暇活動が、鶏小屋あとに筵を敷いて始まりました。“絵を描くこと”に出会った彼らの作品は、全国を、また世界を驚嘆させることとなりました。

そして、2012年10月7日、そのみずのきから美術館が誕生します。

鶏小屋から美術館へ。私たちの新たな挑戦です。

ご挨拶

みずのき美術館は、アール・ブリュット作品を紹介することを基本に据えた美術館です。またその発信方法として、「アート」を多様にとらえるだけでなく、展示、公演、ワークショップなどの企画についても「多様性」を誇るものにしていきたいと考えています。

私たちは、アート作品を、個人の深い内面からの、すなわち、無意識からの発信ととらえ、作品を通して、さまざまな「個」に出会うこと、人間の多様性の理解へと広がることを期待しています。これまで50数年間、重い知的障害の人とともに歩んだ施設だからこそ、「物言わぬ人」の真の思いを伝えたいと切実に願っているのです。

近年、世界中の人々が、真の幸福について迷い、苦しんでいます。そして、それぞれの背景は異なりつつも、そこから脱却する道を模索せざるを得ない状況に立たされています。

私たちは、その答えの手掛かりを「アール・ブリュット」に託しています。

みずのき美術館代表　西藤二郎（社会福祉法人松花苑理事長）

みずのき絵画教室の歴史

1959年　「亀岡松花苑（現みずのき）」開設（知的障害者入所施設）

1964年　日本画家・西垣籌一氏による絵画教室が開始される

1978年頃　選抜メンバーによる絵画専門プログラムが開始される

1981年　第1回「土と色―ちえおくれの世界―」（京都市立美術館／京都）

1983～84年　NHKの取材・撮影（約半年間）
　ドキュメント番組「ふれあいの画布」「共に描き共に生きる」放送

1993年　「パラレル・ヴィジョン 20世紀美術とアウトサイダー・アート」
　（小笹逸男・福村惣太夫・吉川敏明3名7作品が出展）

1994年　スイス・ローザンヌ市「アール・ブリュット・コレクション」にアジアで初めて永久収蔵される
　（小笹逸男・堀田哲明・山本悟・高橋滋・吉川敏明・二井貞信）

1995年　記念画集「ART INCOGNITO」出版（藍風館）

1996年　「みずのき寮のアーティストたち―人間おける表現とはなにか―」
　（ヨコハマポートサイド・ギャラリー／神奈川）

1997年　「エイブル・アート・フェスティバル'95」（アジア太平洋トレードセンター／大阪）

西垣籌一著「無心の画家たち・知的障害者寮の30年」出版（NHKブックス）

「ATR INCOGNITO」（アール・ブリュット・コレクション／スイス・ローザンヌ）

「魂の対話 ABLE ART '97 TOKYO
　―みずのき寮の絵かきたち＋西垣籌一・千葉盲学校の子どもたち＋西村陽平―」（東京都美術館／東京）

1998年　「生の芸術―その発見と未来―」（京都文化博物館／京都）

「アート・ナウ'98 ほとばしる表現力 アウトサイダー・アートの断面」（兵庫県立近代美術館／兵庫）

1999年　「みずのき寮からの発信―言葉はいらない 魂との出会い―」（丸亀市立猪熊弦一郎現代美術館／香川）

2000年　「誇り高き17人の画家とその棟梁」（兵庫県篠山市内4カ所に展示）

2001年　「エイブル・アート英国展 ～魂の響き～」（イギリス3都市を巡回）

2003年　「みずのきの絵画～鶏小屋からの出発～」（林原美術館／岡山～泉美術館巡回／広島）

2004年　「みずのきの絵画～内なる声を描いた画家たち～」（思文閣美術館／京都）

2008～09年　「日本のアール・ブリュット作家」（ローザンヌ～ウィーンを巡回）

2011年　「日本のアール・ブリュットの作品の評価定値に向けた作品の収集保存・展示普及に関する研究会」参加

2012年　みずのき美術館開館
　開館記念展「日本のアール・ブリュットについて語ろう ～私たちが考えるこれからの美術～」開催

みずのき美術館

MIZUNOKI MUSEUM of ART
KAMEOKA

2012.10.7 Opening

日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

〒621-0861 京都府亀岡市北町18　TEL 0771-20-1888　FAX 0771-20-1889　E-mail mizunoki-art@syokaen.jp　URL www.mizunoki-museum.org

建築·設計について

町家の多くは、文化財というよりは、最低限の資材で建設されていたり、住民の都合にあわせて自由に改変されていたりというようなリアルな生活の道具です。そうしたリアルな町家は観光客などを喜ばせるような記号的な派手さはありませんが、生活の中で使われ続けてきたものだけがもつ、やさしく、時には複雑な味わいのようなものが感じられる場合が多いです。みずのき美術館になる前の町家(理容店として大幅に改修されていました)はそうしたもののひとつでした。私たちは当計画のために選ばれた小さな町家に、アール·ブリュットから受ける印象に近いものを感じ、改修する際、その味わいが極力失われないように注意深く改修計画を練りました。出来たものは単なる町家の改修というわけでもなく、新しいもの、古いもの、きれいなもの、すこしかわったもの等が共存しているようなデザインとしています。

乾 久美子　Kumiko Inui

1969年大阪生まれ。東京藝術大学美術学部建築科卒業、イエール大学大学院建築学部修了。
青木淳建築計画事務所勤務の後、2000年、乾久美子建築設計事務所設立。現在、東京藝術大学美術学部建築科准教授。

2012年、第13回ヴェネチア·ビエンナーレ国際建築展日本館に参加。
"金獅子賞(パヴィリオン賞)"受賞(2012年8月29日)
テーマ「ここに、建築は、可能か」
コミッショナー 伊藤豊雄
参加作家 建築家／乾久美子、藤本壮介、平田晃久、写真家／畠山直哉

開館記念展について

「アール·ブリュットとはなにか」。この問いは、一般の人にはもちろんのこと、関係者にとっても容易ではありません。とりわけ日本では多くの人が、多くの報道を通して、「障害者の作り出す作品」と単純に理解してしまっています。
1993年、みずのきの作品が、アジアで初めてアール·ブリュット·コレクション(スイス·ローザンヌ市)に永久収蔵されました。そして、時を経て2010年、「アール·ブリュット·ジャポネ」展が、パリ市立アル·サン·ピエール美術館で開催され好評を博しました。しかし後者にみずのきの作品は出品されていないように、それぞれの作品は制作のプロセスや、それを支える体制などその背景は異なっています。こうした状況をどう考えるのか、そしてどう楽しんでいくのか、……これは、難しくも興味深い問いとして、私たちの前にあります。
「みずのき美術館」が開館するこのまたとない機会に、「アール·ブリュット」を、そして、これからの美術をどう考えればよいか、亀岡を訪れてくれる皆様と語り合いたいと願っています。

保坂 健二朗　Kenjiro Hosaka

1976年生まれ。東京国立近代美術館主任研究員。
企画した主な展覧会に「エモーショナル·ドローイング」「この世界とのつながりかた」「建築はどこにあるの?」など。
滋賀県アール·ブリュットアドバイザーも務める。

みずのき美術館

VI(Visual Identity)について

自然と風格を備えた亀岡の雰囲気や収蔵作品に共通してみられる大胆さをイメージの出発点としています。文字は伝統的な活字書体をベースに、大きく読みやすくそして風とおしの良い字体を目指しデザインしました。シンボルマークは、「みずのき」と「ミュージアム」の頭文字である「M」と美術館の建築をモチーフにしています。文字とマークの周囲に風景を感じるような間を持たせ、開かれた美術館であることを象徴させています。そして、新たな美術館の形を提案していく、みずのき美術館に相応しい新鮮さをもったロゴデザインを心がけました。

菊地 敦己　Atsuki Kikuchi

1974年東京生まれ。武蔵野美術大学彫刻科在学中の1995年、ネオ·スタンダードグラフィックスを立ち上げ、グラフィックデザインの仕事を始める。2000年ブルーマークを設立。
アートディレクターとしてファッションブランドのブランディング·イメージ、雑誌等のエディトリアルデザイン、飲食店のプロデュースほか、多角的なデザイン活動を展開。
2011年株式会社菊地敦己事務所を設立。

開館記念展
「日本のアール·ブリュットについて語ろう ～私たちが考えるこれからの美術～」

[会　期] 2012年10月8日(月·祝)～2013年3月17日(日)
[監　修] 保坂健二朗(東京国立近代美術館主任研究員)
[入館料] 一般400円／高大生200円／中学生以下無料
[開　館] 水曜日～日曜日 10:00～18:00
休館日:月·火曜日(但し祝日の場合は開館)
[主　催] みずのき美術館　日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

開館記念特別イベント

2012年11月(予定)
トークイベント「ワタシが作り ワタシが纏う」(仮題)
ゲスト:ピュ～ぴる(現代アーティスト)、奈良平宣子(テキスタイルアーティスト)
北村真也(フリースクール アウラ学びの森代表)
会　場:みずのき美術館 ＊会場は変更の場合があります

2012年12月9日(日)
トーク＆ライヴイベント
ゲスト:大友良英(音楽家)
会　場:みずのき美術館 ＊会場は変更の場合があります

2013年3月10日(日)
講演会「無意識と創造性」(仮題)
講　師:きたやまおさむ(精神科医·作詞家)
会　場:みずのき美術館 ＊会場は変更の場合があります